

令和4年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価  
及び地域公共交通計画の評価結果 概要（全体）

## 東員町地域公共交通会議 (東員町)

平成24年 7月 2日 設置

令和 3年 3月22日 東員町地域公共交通計画策定  
(計画期間：令和3年4月～令和8年3月)

令和 3年 6月18日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

令和 5年 1月17日 令和4年度評価結果送付

## ■ 地域の特性と背景

- 人口25,784人（R2国勢調査）。北部の住宅団地（笹尾・城山地区）が人口の約5割を占め、高齢化が急速に進展。
- 町内の公共交通は三岐鉄道北勢線・三岐線、路線バス（三重交通、八風バス、三岐鉄道）、町運営のオレンジバス、タクシーで構成。
- 「東員町地域公共交通総合連携計画」を平成25年6月に策定。平成26年10月からオレンジバスの再編を実施。平成28年10月から路線名称、ルート、ダイヤの一部変更を実施。
- 令和3年3月に「東員町地域公共交通計画」を策定。



### 東員町 オレンジバス 時刻表

料金は200円です。 100 100 1乗車でどこへでも200円です。お乗換えは乗車回数からとなります。	南北線と東部線の2種類の路線があります。 南北線は2台のバス、東部線は1台のバスで走っています。ダイヤは別表をご覧ください。
朝夕便と昼便があります。 朝夕便 6-8時頃 8-17時頃 昼便 17-20時頃	年末年始だけお休みです。 361日 12月31日-1月3日のみ運休しています。そのほかの日は通常ダイヤで運行します。

公共交通が暮らしを支えるまち

### 東員町地域公共交通計画

令和3年3月 東員町

# 1. 【Plan】 協議会等が目指す地域公共交通の姿

## ■ 東員町地域公共交通計画の概要

### 《基本理念》

#### 「公共交通が暮らしを支えるまち」

町民、特に交通弱者が健康で活動的な生活を送るために、公共交通を利用して移動ができる環境を整備することで公共交通が町民の暮らしを支えるまちを目指す。

### 《基本方針》

- 1 未来につながる公共交通（維持・活性化）
- 2 コネクトする公共交通（交通結節点強化）
- 3 身近に感じる公共交通（利便性向上）
- 4 魅力ある公共交通（魅力発信・快適性向上）

### 《計画期間》

令和3年度～令和7年度（5年間）

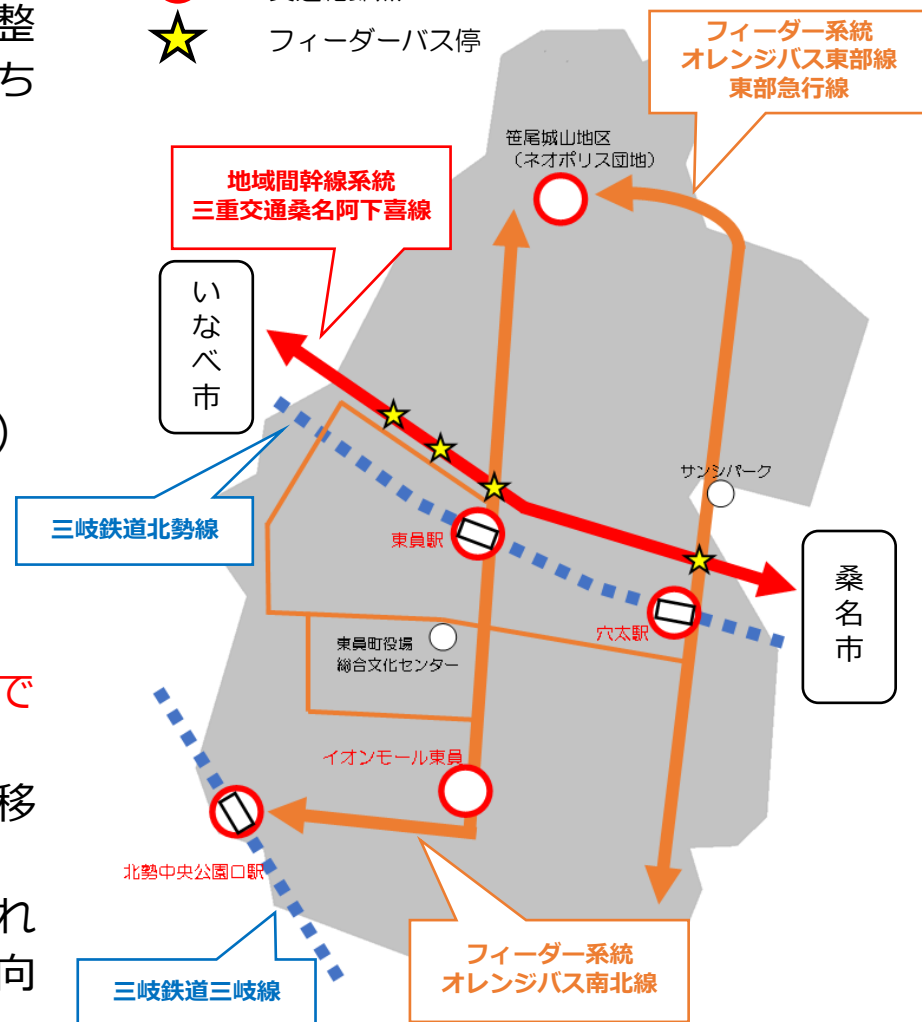
### 《公共交通ネットワークの形成方針》

東西方向は民間路線、南北方向はオレンジバスで機能分担

隣接する桑名市、いなべ市、四日市市への広域移動となる東西方向は、鉄道（北勢線）、路線バス（桑名阿下喜線）による民間事業者が対応し、これらに接続する端末移動及び町内移動となる南北方向は、オレンジバスが担うことにし、機能分担する。

### 《公共交通ネットワーク図》

- ■ ■ ■ 鉄道
- 町の路線（補助対象フィーダー系統）
- 民間路線（補助対象幹線系統）
- 交通結節点
- ★ フィーダーバス停



## 2. 【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
★オレンジバスの運行 (フィーダー補助路線 ※南北急行線は除く)	コミュニティバスの運行を継続	利用者数は前年より 7.2%減少 (80,092人⇒74,317人)	新型コロナウイルス感染症の影響と、令和3年4月に実施した運賃改定による外出控えが影響。
オレンジバスの運賃体系及びダイヤの改正	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年4月から大人運賃を100円から200円に改定するとともに、小人運賃(100円)を新設</li> <li>運転手の負担軽減、北勢線のダイヤとの調整のため、令和3年4月にオレンジバス南北急行線のダイヤ改正を実施</li> </ul>	利用者数が前年より7.2%減少するなか、運賃収入は3,860,385円増加し、オレンジバスの収支率は14.3%に増加(9.9%⇒14.3%)	運賃の値上げで利用者数は減少したが、収支率は改善。 運賃の設定にあたり、町民へのアンケート調査やワークショップを実施するなど、町民生活への影響や運賃改定による利用控えが最小限なるよう努めた。
おでかけ元気パス事業の実施 (福祉部局との連携事業)	令和3年4月からの運賃改定に合わせ、高齢者の外出、社会参加の促進及び健康増進を目的に、75歳以上及び65歳以上で運転免許返納者を対象に、提示するとバス運賃が半額になるパスを配布	令和3年度の利用者数 16,656人 	75歳以上の方については、申請の必要はなく、町からパスが送付される仕組みにより、多くの方が利用。高齢者の外出を促すためのパスとして、さらなる特典や利用事業の拡大を検討。
オレンジバスにデジタルサイネージを設置	民間事業者と協力した取り組みで、行政情報と町内の民間企業の広告を放送するデジタルサイネージをバス車内に設置	令和4年4月から民間広告5社及び行政情報6枠を放送	サイネージ設置料として運賃収入以外の収益が増加。またオレンジバスのぬりえを募集し、サイネージで放送するなど、利用者の増加にも寄与。
ヴィアティントレインの運行 	国の補助を活用した取組で、東員町が中心となり、民間事業者と協力し、町陸上競技場をホームグラウンドに活動するサッカーチームのラッピングの車両を作成し、令和4年4月から運行開始	東員駅の利用者数が大幅に増加 (224人/日⇒430人/日) ※R4.3.13(運行前)とR4.10.30(運行後)の東員駅の乗降者数(10時から17時まで)の比較	町陸上競技場で開催されるホームゲームの開始時刻に合わせラッピング車両を充当するなど、サッカー観戦者が公共交通を利用するよう促し、観光事業と連携した公共交通の利用促進施策を実施。

## 3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

計画目標・評価指標・ 目標値		達成状況				昨年度比	考察
		基準値	1年目 R3年度	2年目 R4年度	3年目 R5年度		
1 未来につながる公共交通（維持・活性化）							
鉄道の維持・活性化	北勢線利用者数を基準値以上に増加	2,551,724人 (R元年度)	2,006,168人 (R2年度)	1,923,377人 (R3年度)		↓	新型コロナウイルス感染症による外出控え、生活様式の変化の影響等で減少。
バスの維持・活性化	桑名阿下喜線の輸送量を基準値以上に増加	38.0人/日	35.3人/日	38.0人/日		→	桑名阿下喜線は基準値と同水準で、イオンモール東員線は目標達成。イオンモールが地域に定着してきた効果大きい。
	イオンモール東員線の輸送量を基準値以上に増加	31.3人/日	48.8人/日	47.2人/日		↑	
持続可能な仕組みの構築	オレンジバス収支率を15%以上とする	13.7% (R元年度)	9.9% (R2年度)	14.3% (R3年度)		↑	目標未達成だが、運賃の値上げにより大幅に改善。
	町の費用負担額を基準値以下に削減	9,600千円 (R元年度)	16,671千円 (R2年度)	14,109千円 (R3年度)		↓	車両更新を含む新規契約のため増加。基準値の見直しが必要。
2 コネクトする公共交通（交通結節点強化）							
交通結節点の利便性向上	東員駅の乗車人員を基準値以上に増加	184,604人 (R元年度)	139,089人 (R2年度)	140,466人 (R3年度)		↑	他の鉄道と同様に新型コロナウイルスによる影響等で減少。東員駅については観光事業と連携した取り組みにより昨年度より増加。
	穴太駅の乗車人員を基準値以上に増加	126,968人 (R元年度)	102,401人 (R2年度)	101,708人 (R3年度)		↓	
	北勢中央公園口駅の乗車人員を基準値以上に増加	104,337人 (R元年度)	81,225人 (R2年度)	80,616人 (R3年度)		↓	

## 3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

計画目標・評価指標・目標値		達成状況				昨年度比	考察
		基準値	1年目 R3年度	2年目 R4年度	3年目 R5年度		
3 身近に感じる公共交通（利便性向上）							
オレンジバス再編	オレンジバス乗車人員を基準値以上に増加	83,844人	80,092人	74,317人		↓	<p>新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化により、通勤・通学の利用が回復してこず、南北急行線（朝夕便）の減少率大きい。東部線の利用者が南北線と比較し、少ないことから、令和4年度にバスルートについて沿線自治会と協議を実施。現在、沿線自治会からの意見を反映させた、新しいルート、ダイヤを検討中。</p>
【路線別利用者数の推移】						単位：人	
年間利用者数	南北急行線	東部急行線	南北線	東部線	総合計		
令和4年度実績	11,444	2,103	51,620	9,150	74,317		
令和3年度実績	13,103	2,244	55,545	9,200	80,092		
令和2年度実績	15,000	2,585	56,202	10,057	83,844		
増減（R4/R3）	87.3%	93.7%	92.9%	99.5%	92.8%		
4 魅力ある公共交通（魅力発信・快適性向上）							
外出支援	おでかけ元気パスの利用者の延べ数 18,000人/年	0人	16,656人			-	広報、PRに努めたため、目標値に近い水準まで達成。

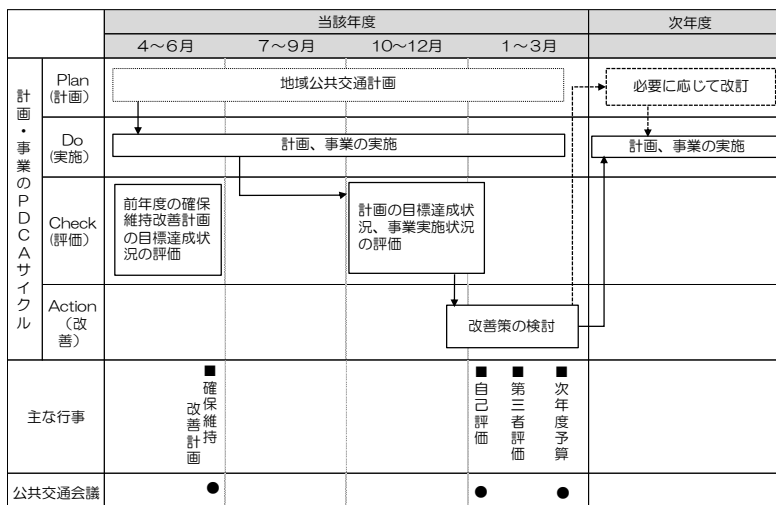
計画目標の現在の到達点	今後の取組方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オレンジバスの利用者数は減少。</li> <li>・ 鉄道（北勢線）の利用者数は減少傾向であるが、東員駅の利用者数は昨年度より増加。回復基調に入っている。</li> <li>・ 三重交通桑名阿下喜線の利用者数は昨年度より増加。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東員駅や町役場、サッカーチームのホームグラウンドである町陸上競技場、そしてイオンモール東員がある町の中心エリアへのアクセスを向上させるべく、オレンジバスルートの再編を行う。</li> <li>・ オレンジバスと鉄道、路線バスとの接続を調整し、スムーズに乗継ができるようダイヤの再編を行う。</li> <li>・ 鉄道や幹線バスなどの広域にまたがる公共交通については、引き続き交通圏内の自治体（いなべ市、桑名市）や県との協働による利用促進施策に取り組む。</li> </ul> <p>⇒以上により目標年度（令和7年度）には 目標値達成を目指す。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オレンジバスの収支率は目標未達成であるが、改善傾向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運賃改定に合わせて実施した「おでかけ元気パス事業」「未就学児の運賃無料」などの施策を継続するとともに、オレンジバスルート、ダイヤの再編など利用者の利便性を向上させる取組みにより利用者増を図り、収支率のさらなる改善に取り組む。</li> </ul> <p>⇒利用者数の増加に資する取組みを重点的に行うことで、収支率の目標年度内における目標値の達成を目指す。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町の財政負担額は、交通事業者との車両更新を含む新規契約のため1.4倍に増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和3年度から車両更新費用を含む新規契約を締結したため、運行委託費が大幅に増加。今後は同水準の財政負担が続くことが見込まれることから、目標値の見直しを検討。</li> </ul> <p>⇒目標値を見直した上で、利用の少ないルート・ダイヤの見直しを図るなどし、財政負担の軽減を目指す。</p>

年度	二次評価結果 (期待する取組)	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	1 地域公共交通計画に位置付けられた取組を着実に推進されることを期待。	・計画的に取組を実施。	・令和5年度にオレンジバス南北線、東部線のルート、ダイヤを再編予定。
	2 コロナ禍においても安心して公共交通を利用してもらえるよう、公共交通における新型コロナウイルス対策をPRすることにより、利用促進につなげられることを期待。	・ケーブルテレビにおいてオレンジバスの整備や運行前点検の様子、新型コロナウイルス対策を特集し放送。また、バス車内のサイネージにおいて新型コロナウイルス対策をPR動画を放送。	・公共交通における新型コロナウイルス対策として、オレンジバスへのキャッシュレス決済導入について検討。
	3 町内のフィーダー交通利用の前提となる三岐鉄道北勢線の維持・活性化に向け、積極的な役割を果たすことを期待。	・ヴィアティントレイン事業（北勢線車両の外装・内装ラッピング、高校生による車内放送用音源の作成など）、サンタ電車など、三岐鉄道北勢線の維持・活性化に資する取り組みを実施。	・沿線市町（いなべ市、桑名市）及び三岐鉄道(株)と連携し、コロナ禍で実施できていなかったイベントなどの利用促進事業を実施。
前々回	1 持続可能な地域公共交通サービスを実現するための計画策定を期待。	・令和2年度に「地域公共交通計画」を策定。	・計画的に各種事業に取り組む。
	2 上記2と同様	—	—

※前回：令和4年3月10日、前々回：令和3年3月1日



【年間単位の評価スケジュール】



【協議会等の開催状況】

	開催日	主な議題
令和3年度第2回 東員町地域公共交通会議	令和4年 1月18日	自己評価、ヴィアティンフェスティバルでの活動報告、ヴィアティントレイン事業について
令和3年度第3回 東員町地域公共交通会議	令和4年 3月（書面決議）	東員町地域公共交通計画の事業実施状況及び目標達成状況の評価、令和4年度予算案
令和4年度第1回 東員町地域公共交通会議	令和4年 6月17日	令和3年度決算、生活交通確保維持改善計画、オレンジバスのルート・ダイヤ再編について
令和4年度第1回 東員町生活交通を考える会	令和4年 7月 5日	令和3年度の事業報告と令和4年度の予定、オレンジバスのルート・ダイヤ再編について
TOINマルシェへの出展	令和4年 9月17日	オレンジバス車両の展示、バスぬりえの募集
オレンジバス意見交換会 （中上自治会）	令和4年 9月17日	オレンジバス東部線の新ルートについての意見交換
町民ワークショップ	令和4年 11月 6日	基調講演、公共交通利用の目的づくり
令和4年度第2回 東員町地域公共交通会議	令和5年 1月13日	自己評価、燃料価格高騰対策支援について

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 5年 1月13日

協議会名: 東員町地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持国保補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
八風バス(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●昼便 南北線 城山・笹尾、笹尾・城山系統 東員駅～サンシパーク～一号館～いなべ整形外科～東員駅</li> <li>三和・稲部、稲部・三和系統 東員駅～稲部小学校～北勢中央公園口駅～東員駅</li> </ul>	<p>1 地域公共交通計画に位置付けられた取組を推進すること。 ⇒地域公共交通計画に位置付けられている事業を計画的に実施。</p> <p>2 公共交通における新型コロナウイルス対策をPRし利用促進につなげること。 ⇒ケーブルテレビにおいてオレンジバスの整備や運行前点検の様子、新型コロナウイルス対策を特集し放送。また、バス車内のサイネージにおいて新型コロナウイルス対策をPR動画を放送。</p> <p>3 町内のフィーダー交通利用の前提となる三岐鉄道北勢線の維持・活性化に向け、積極的な役割を果たすこと。 ⇒ヴィアテントレイン事業(北勢線車両の外装・内装ラッピング、高校生による車内放送用音源の作成など)、サンタ電車など、三岐鉄道北勢線の維持・活性化に資する取り組みを実施。</p>	A評価 補助対象期間の開始日以来、計画どおり適切に実施されている。	B評価 以下の目標を設定したが、収支率以外は未達成となった。 収支率は運賃改定により、大幅に改善した。運賃の設定にあたり、町民アンケートを実施し、運賃改定による利用控えが最小限なるよう努めたことも目標達成の一助になったと考える。 乗車人員は、新型コロナウイルス感染症の影響に加え、令和3年4月から運賃を改定したことによる利用控えが、目標を達成できなかった要因と考える。 おでかけ元気バス事業は、目標までもう少しの水準であるが、バスの特典がオレンジバスの運賃割引のみであることが要因の一つと考える。  目標と達成率 ①オレンジバスの収支率 【目標値】14.22% 【実績】14.3% 【達成率】101%⇒達成 ②オレンジバス乗車人員 【目標値】83,844人 【実績】74,317人 【達成率】88.6%⇒未達成 ③おでかけ元気バス利用者数 【目標値】18,000人 【実績】16,656人 【達成率】92.5%⇒未達成	左記の結果を踏まえ、地域公共交通計画に位置付けた事業を推進する。特に、次の取組を進める。  ○東員駅や町役場、サッカーチームのホームグラウンドであるスタジアム、そしてイオンモール東員がある町の中心エリアへのアクセスを向上させるべく、オレンジバスルートの再編を行う。 ○オレンジバスと鉄道、路線バスとの接続を調整し、スムーズに乗継ができるようダイヤの再編を行う。 ○オレンジバスルート、ダイヤの再編など利用者の利便性を向上させる取組みにより利用者増を図り、収支率のさらなる改善に取り組む。 ○高齢者の外出を促すためのバスとして、おでかけ元気バスのさらなる特典や利用事業の拡大を検討。

三岐鉄道株	●朝夕便 東部急行線 ネオポリス～穴太駅～ 北村地藏南～ネオポリス	上記の取組を実施。	A 評価	補助対象期間の開始日以来、 計画どおり適切に実施されてい る。	B 評価	上記と同様	上記と同様
	●昼便 東部線 東員駅～念仏橋～穴太駅～ ネオポリス～穴太駅～東員駅	上記の取組を実施。	A 評価	補助対象期間の開始日以来、 計画どおり適切に実施されてい る。	B 評価	上記と同様	上記と同様

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 5年 1月13日

協議会名:	東員町地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持国保補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>【地域の概況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口25,784人(令和2年国勢調査)。北部の住宅団地(笹尾・城山地区)が人口の約5割を占め、高齢化が急速に進展。</li> <li>・町の公共交通は三岐鉄道北勢線・三岐線、路線バス(三重交通、八風バス、三岐鉄道)、町運営のオレンジバス、タクシーで構成。</li> <li>・「東員町地域公共交通総合連携計画」を平成25年6月に策定。平成26年10月からオレンジバスの再編を実施。平成28年10月から路線名称、ルート、ダイヤの一部変更を実施。</li> <li>・令和3年3月に「東員町地域公共交通計画」を策定。</li> </ul> <p>【地域の公共交通の目指す姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■第6次東員町総合計画 《目指す姿》交通弱者が公共交通を利用して移動ができています。</li> <li>■東員町地域公共交通計画 《基本理念》「公共交通が暮らしを支えるまち」 《基本方針と基本目標》       <ol style="list-style-type: none"> <li>1 未来につながる公共交通 基本目標1-1 鉄道の維持・活性化、基本目標1-2 バス・タクシーの維持・活性化、基本目標1-3 持続可能な仕組みの構築</li> <li>2 コネクトする公共交通 基本目標2-1 交通結節点の利便性向上</li> <li>3 身近に感じる公共交通 基本目標3-1 オレンジバス再編、基本目標3-2 新たな移動形態の研究・実現推進</li> <li>4 魅力ある公共交通 基本目標4-1 外出支援、基本目標4-2 公共交通の魅力発信、基本目標4-3 快適性の向上</li> </ol> </li> </ul> <p>【事業実施の目的・必要性】</p> <p>本町では、オレンジバス及び鉄道を使って桑名・四日市・名古屋・いなべ方面への通勤、通学の移動手段を確保するとともに、町内外のスーパーや診療所へのアクセス手段として、地域間幹線系統と接続するフィーダー系統(オレンジバス)を組み合わせることにより、地域公共交通の構築を進めている。今後も、公共交通機関相互の連携を強化しながら、利便性の高い公共交通ネットワークを形成するため、本事業を継続して実施する必要がある。</p>